

たからづかしの 家計簿

令和3年度（2021年度）決算概要





市の財政状況については「広報たからづか」などでお知らせしていますが、もっと身近にわかりやすく理解してもらうため一般家庭に例えながら解説していきます。

予算と決算って？

「たからづかしの家計簿」では令和3年度決算を基に市の財政を説明していきます。まず「予算・決算」とは、「予算」が使う見込みを表すものであるのに対し、「決算」とは予算を上限として市民サービスを行った結果の数字となります。

一般家庭で例えると、予算は「食費にいくら、次に買う家電にいくら」とあらかじめ計画することで、決算は実際に使ったお金のことをいいます。

市の会計の種類って1つじゃないの？

市の会計は複数に分かれています。1つだけの方がわかりやすいのかもしれませんが、例えば市民の中でも一部の方だけが加入している国民健康保険に関する収入と支出は、その他の一般的なお金と分ける必要があるため、会計を分けています。

一般家庭で例えると、生活していくためのお金とその他の目的のお金を別に管理していることと似ています。

宝塚市の会計について

特別会計

- 国民健康保険事業費
- 国民健康保険診療施設費
- 介護保険事業費
- 後期高齢者医療事業費
- 財産区（9財産区）
- 宝塚市営霊園事業費

一般会計

公営企業

- 水道事業会計
- 病院事業会計
- 下水道事業会計

*市によって一般会計と特別会計の分けかたが違うため、他自治体と比較できるよう全国的に統一の基準で作る仮想の会計として「普通会計」があります。宝塚市では概ね一般会計+宝塚市営霊園事業費=普通会計となります。



いくらぐらいお金の出入りがあったの？

では、次に3つの会計の内、一番代表的な一般会計の決算状況について解説します。
一般家庭でも家計簿をつけるとどんな項目にどれだけお金を使ったのかを客観的に見られるように、市の決算を見ることで市が過去一年間で、どんな市民サービスにお金を使ったのか、またどんなお金が入ってきたのかがわかります。

さて、本市の決算状況ですが

$$\text{入ってきたお金（歳入）} 939.8\text{億円} - \text{使ったお金（歳出）} 910.9\text{億円} = 28.9\text{億円}$$

ただし、この28.9億円の中には来年度使うことを約束しているお金（翌年度に繰越すべき財源）が5.1億円あることから、実際の令和3年度収支は

$$28.9\text{億円} - 5.1\text{億円} = 23.8\text{億円}$$

となり使ったお金より、入ってきたお金の方が23.8億円多かったということになります。

※令和3年度は23.8億円のプラスとなりましたが、たからづかしの財政は厳しい状況にあります。
 詳しくは12ページを参照。

決算規模と決算収支の状況

(単位：億円)

	歳入決算額 a	歳出決算額 b	形式収支 a - b = c	翌年度に繰越すべき財源 d	実質収支 c - d
令和3年度	939.8	910.9	28.9	5.1	23.8
令和2年度	1055.9	1036.2	19.7	4.6	15.1
増減額	△116.1	△125.3	9.2	0.5	8.7
増減率(%)	△11.0	△12.1	-	-	-



補足用語説明

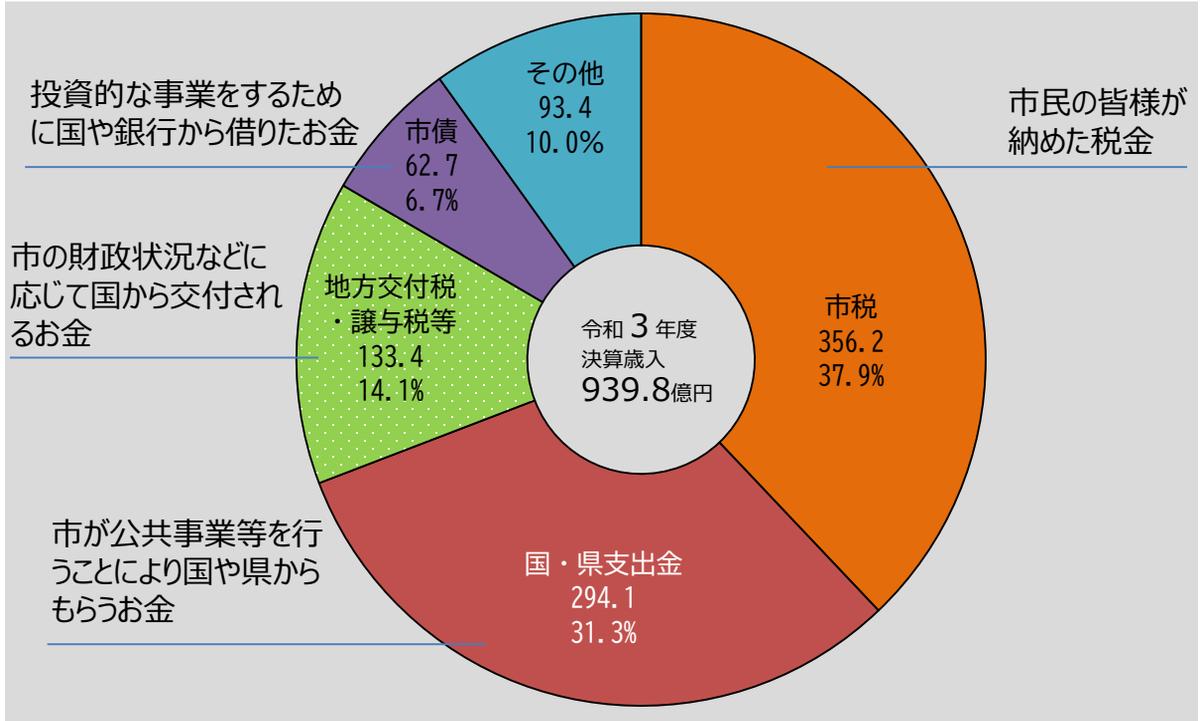
- 「形式収支」・・・これは入ってきたお金から使ったお金を引いたものです。
市でも一般家庭でもマイナスになる場合、赤字になっている状態です。
- 「翌年度に繰越すべき財源」・・・形式収支の中には、その年度中に完了し支払いも終わる予定だったが何らかの理由で未完了となった工事等に対する支払いが含まれています。その未完了分はまだ支払いが終わっていないため財源を翌年度に繰り越すこととなります。
一般家庭では年度単位でお金を考えることが少ないため、イメージしにくいですが、例えば家の補修を頼んでいたが、期限までに間に合わず、それに伴って支払いも遅くなった場合などです。
- 「実質収支」・・・形式収支 - 翌年度に繰越すべき財源



入ってきたお金の内訳は？

次は入ってきたお金はどんな種類で、どれくらいあるかを解説します。主な内容と数値は円グラフのとおりです。

単位：億円



本市は例年の決算では市税の割合が歳入の半分近くとなる特徴がありますが、令和3年度は国から交付された補助金や地方交付税の割合が多かったことから、市税の割合は37.9%となりました。

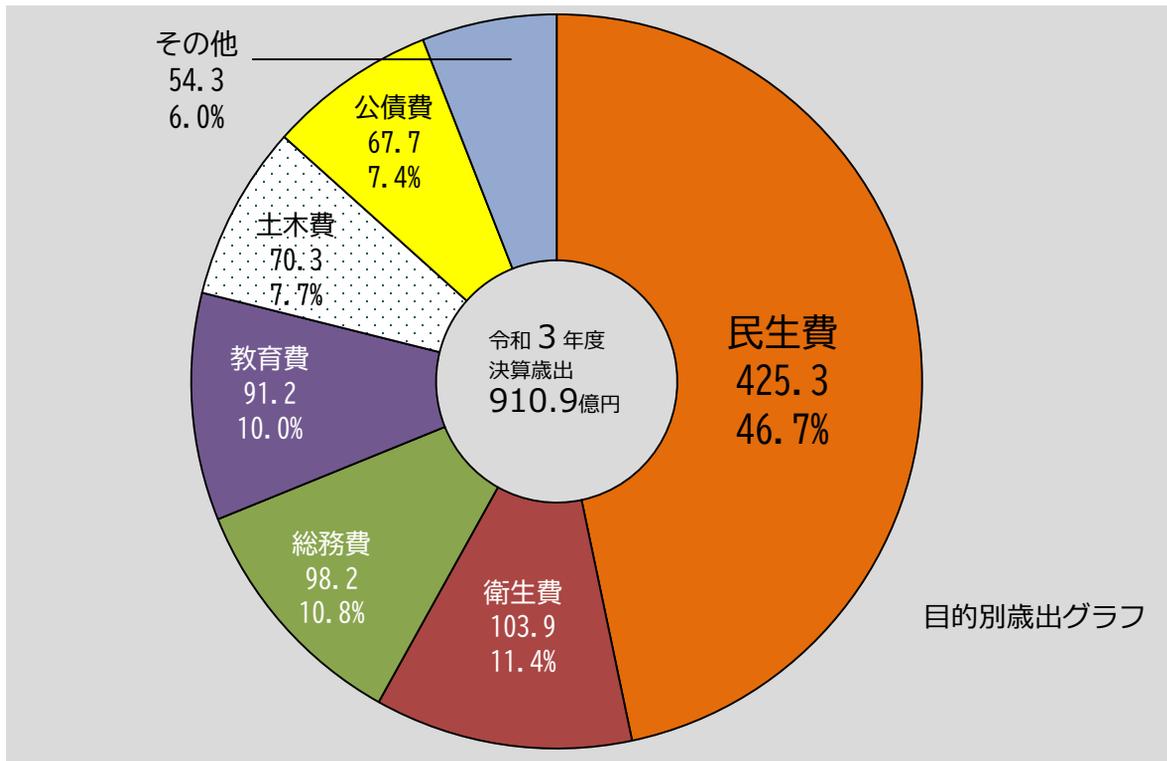
市税の主な内訳と決算額の推移は次のグラフのとおりです。



どんな目的にどのくらいお金を使ったの？

次は使ったお金はどんな目的にどのくらいお金を使ったのか解説します。
主な数値は円グラフのとおりです。

単位：億円



〇〇費とありますが、一般家庭で例えると食費、ガソリン代、塾代といったように目的によってお金をわけて管理するものです。

目的別の主な内容は次のとおりです。

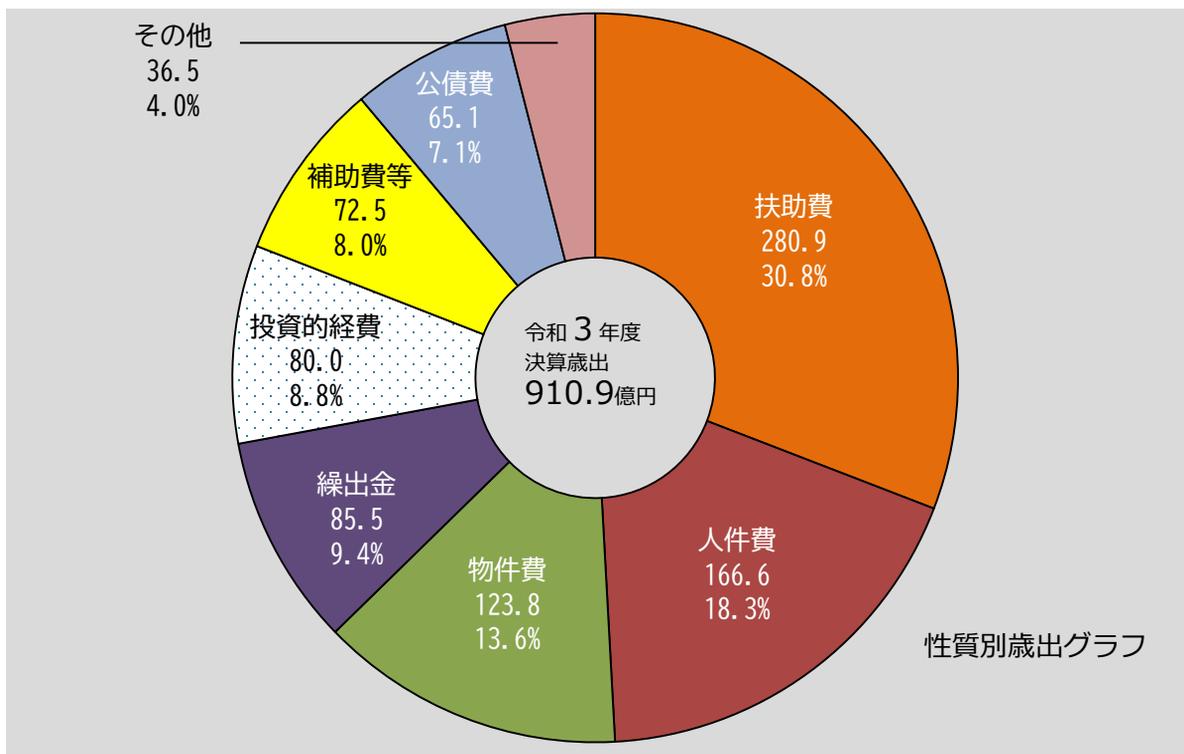
- 民生費
 - 老人・障碍（がい）者などの福祉の充実、子育て支援、生活保護などに係る経費
- 衛生費
 - 市民の健康の保持増進、生活環境の改善、医療、公衆衛生などに係る経費と、ごみなどの一般廃棄物の収集・処理などに係る経費
- 総務費
 - 庁舎や財産の維持管理、企画、広報、市税の賦課徴収、戸籍住民基本台帳事務などに係る経費
- 教育費
 - 学校教育、社会教育、スポーツ振興などの教育行政に係る経費
- 土木費
 - 道路や公園、河川、市営住宅などの建設、整備や維持管理などに係る経費
- 公債費
 - 地方債（借金）の返済に係る経費



どんな内容にどのくらいお金を使ったの？

次は使ったお金はどんな内容にどのくらいお金を使ったのか解説します。
 主な数値は円グラフのとおりです。

単位：億円



性質別とは、扶助費や人件費といったように性質によってお金をみたものです。

性質別の主な内容は次のとおりです。

- 扶助費
→社会保障制度の一環として市が各種法令に基づいて実施する給付や、市が単独で行っている各種扶助に係る経費。具体的には、生活保護法、子ども・子育て支援法、老人福祉法などに基づく給付がこれに当たります。
- 人件費
→給与等の経費
- 物件費
→光熱水費、消耗品の購入、備品購入費、委託料などの市が支出する消費的な経費の総称
- 繰出金
→一般会計から特別会計に支出される費用
- 投資的経費
→道路、橋りょう、公園、学校、公営住宅の建設等社会資本の整備等に要する経費であり、普通建設事業費、災害復旧事業費及び失業対策事業費から構成されています。
- 補助費等
→市が各種団体などに交付する補助金などの経費。企業会計（水道、病院、下水道）に対する補助金などがここに含まれます。
- 公債費
→地方債（借金）の返済経費



使ったお金のグラフから何がわかるの？

目的別や性質別のグラフを見てきましたが、そこからいえることは、福祉関連経費（民生費・扶助費）や人件費の支出が多いことです。

特に性質別のうちで人件費と扶助費、公債費は義務的経費と呼ばれ支出することが義務づけられている経費です。近年、公債費は減少傾向で、扶助費は増加傾向です。人件費は令和2年度にアルバイト賃金が入ったことによる増加を除き、ほぼ横ばいです。

義務的経費が増加することは、投資的経費等その他の経費を圧迫することになります。このグラフの一番左は阪神・淡路大震災前の数値を掲載していますが、扶助費、公債費がこの25年あまりで大幅に増えていることがわかります。

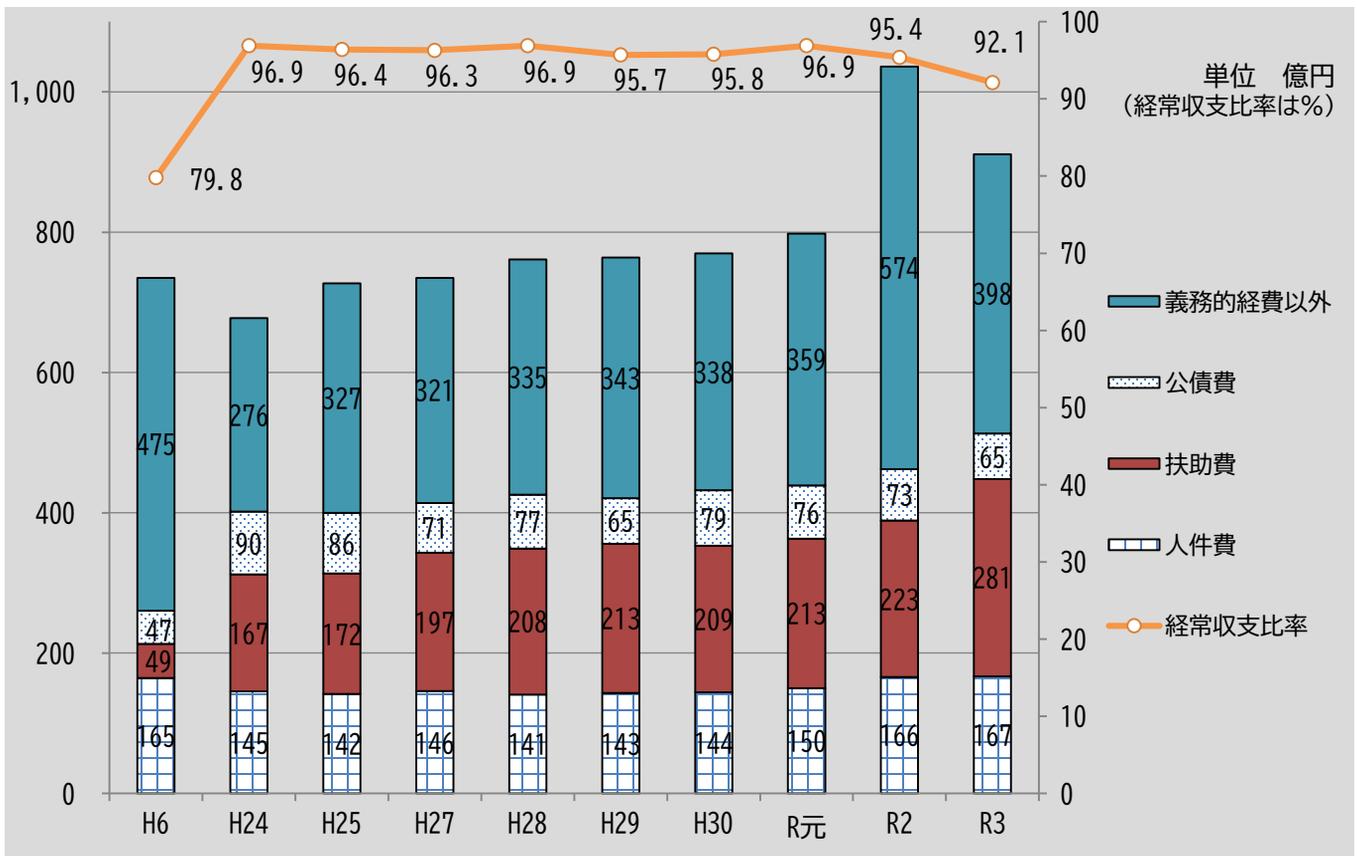
なお、令和2年度は特別定額給付金などの臨時的な国施策により、義務的経費以外の歳出額が大幅に増加しましたが、令和3年度では減少しています。

○経常収支比率

→ 市税等の使い道を制限されない経常的な収入に対する人件費、扶助費、公債費など毎年度支出される経費の割合です。この数字が低いほどお金の使い道の自由度が高い、ということになります。

令和3年度の経常収支比率は92.1%となり、93%を下回るのは平成13年度（91.7%）以来、30年ぶりのことです。

※全国市町村平均の経常収支比率は93.1%（令和2年度決算）





もっと身近な数字にできないの？

市の決算は言葉が難しかったり、額も大きすぎて、イメージしづらいかと思います。イメージを持っていただくため、ここでは月収42万円（年収約500万円。貯金の取り崩し、ローンの借入などを含む。）の一般家庭（子育て世帯）の家計に置き換えてみます。

収入		支出	
給与	37 万円	食費(人件費)	7 万円
うち基本給(市税・地方譲与税等)	18 万円	医療費・育児費(扶助費)	12 万円
うち諸手当(地方交付税・国県支出金等)	19 万円	ローンの返済(公債費)	3 万円
貯金の取崩など(繰入金等)	0 万円	光熱水費・通信費(物件費)	5 万円
ローンの借入(市債)	3 万円	家の修理・家電購入(投資的経費等)	4 万円
前月からの繰越(繰越金)	2 万円	家族などへの仕送り(補助費、特別会計への繰出金等)	7 万円
合計	42 万円	合計	38 万円
		ローン残高(地方債残高)	372 万円
		預貯金残高(基金残高)	67 万円



家計簿を分析してみよう！

医療費・育児費の割合が大きいです。臨時の諸手当（国県支出金等）が出たので家計負担は抑えられています。

諸手当（地方交付税）が増えたことなどにより黒字（収入と支出の差）が増えた分は、貯金するなどして翌月以降の支出に使われます。

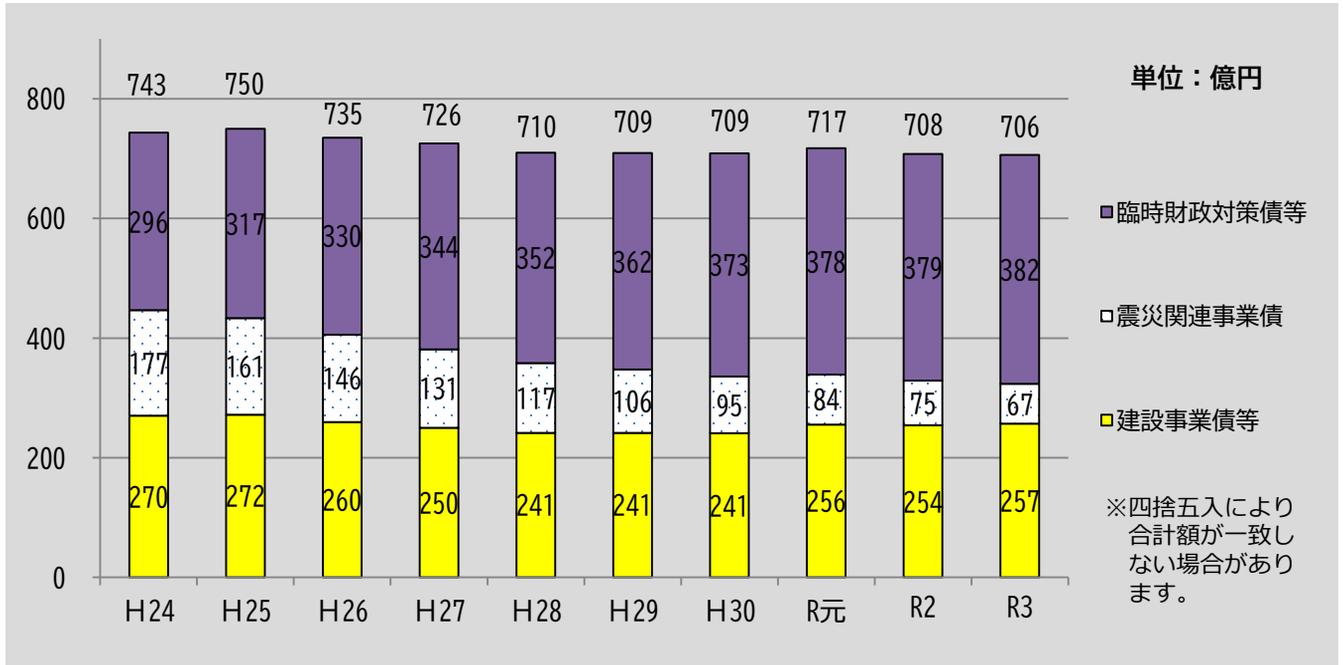
家の修理・家電購入費（投資的経費等）などを我慢してなんとか医療費・育児費・家族などへの仕送りを捻出していますが、家や家電が古くなっており今後は今まで以上に家の修理や家電の買い替えが必要になってきます。買い替え資金や、新たに借りるローンの返済に備えて計画的に貯金（基金）を増やしていく必要があります。

※実際には、家計とは収入・支出のなどの構成や考え方は大きく違うため、本来は置き換えることはできませんが、仮に置き換えた場合、という視点で作成しています。



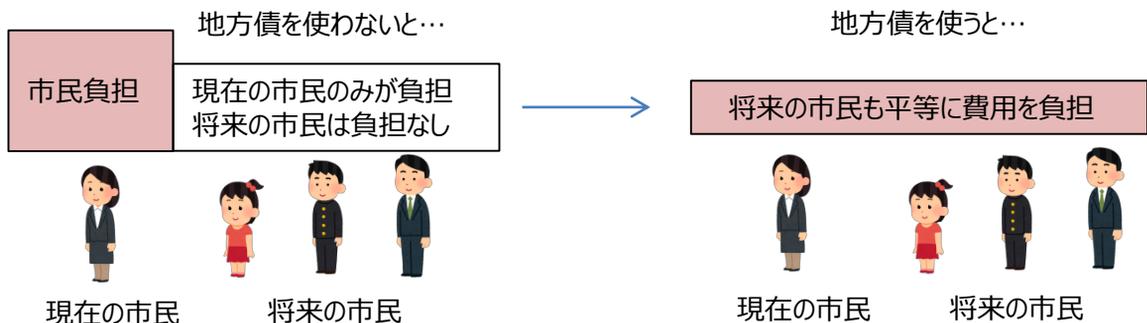
ローン（地方債）はどのくらいあるの？

ローン残高については近年ほぼ横ばいです。内訳としては、臨時財政対策債等が近年増加していますが、これはローン返済相当額を国が後年度に交付税として100%渡してくれる制度であり、実質的に交付税としてもらうようなものですので、他のローンとは性質が異なります。



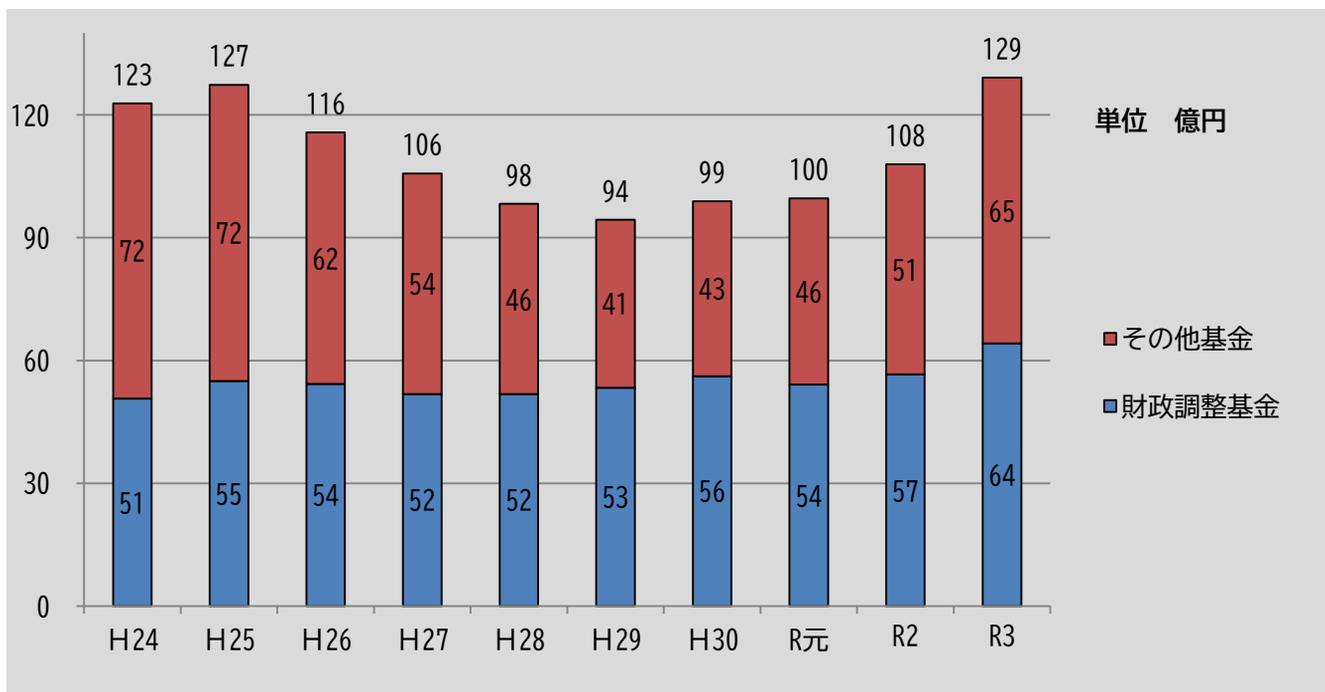
どうしてローンを組むの？

市が公共施設や道路等を建設する場合、一時的に多額の資金が必要となります。その年度だけの収入で賄うと、他の行政サービスが市民の皆さんに提供できなくなるかもしれません。また、そういった施設は将来にわたって何世代もの方が利用します。その負担を現役世代だけではなく、将来世代も負担し、市民負担の公平性を保つ観点からローンを組んで事業を行っています。このローンのことを地方債と呼びます。



貯金（基金）はどのくらいあるの？

一般家庭でいう貯金にあたるものを市では基金と呼びますが、その基金の残高は次のグラフのとおりです。令和3年度は、今後の施設の整備及び保全やローン（地方債）返済のお金に備え、公共施設等整備保全基金（施設の老朽化修繕などの際に取り崩して使う基金）などへの積み立てを行ったことで基金残高が大きく増加しました。



どうして基金が必要なの？

一般家庭でも教育や旅行など、貯蓄目的を分けて積み立てることもあるかと思います。同じように市の基金もお金のやりくりをするための財政調整基金や決まった目的のために積み立てている特定目的基金等があります。安定した行政サービスを提供するために、災害時や経済情勢の悪化など不測の事態に備えておく必要があります。



特別会計の状況

- 歳入総額 14の特別会計の歳入総額は、514.2億円でした。
歳出総額 14の特別会計の歳出総額は、500.3億円でした。
実質収支額 来年度使うことを約束しているお金（翌年度に繰越すべき財源）はなかったことから、13.9億円の収支プラスでした。

主なものとしては、特別会計国民健康保険事業費が8.2億円、介護保険事業費が3.6億円、後期高齢者医療事業費が1.5億円の収支プラスとなりました。

水道事業の状況

- 収益は、44.9億円でした。
費用は、48.2億円でした。
純損失は、3.3億円でした。

令和2年度に引き続き、3年連続の収支マイナスになりました。



下水道事業の状況

- 収益は、40.0億円でした。
費用は、40.0億円でした。

総収益と総費用が均衡する額を他会計補助金として、一般会計から繰り入れました。

病院事業の状況

- 収益は、129.5億円でした。
費用は、125.8億円でした。
純利益は、3.7億円でした。



新型コロナウイルス感染症への対応に係る国県補助金が増加したことなどにより、令和2年度に引き続き、2年連続の収支プラスとなりました。



市の状況を測るものさしはないの？



一般家庭でもローンの審査を受ける時に、所得やローン状況等を金融機関にチェックしてもらい融資を受けることになると思います。

それと同じように市でも一定の基準を満たしていないと新たな借金ができないなどの国のチェック機能（健全化4指標）や国からもらえるお金の基礎となる財政力指数という数字などがあります。

健全化4指標

国の基準に基づく4つの指標です。一定基準を超えると新たな借金（地方債）を制限されるなど、自治体が破たんしないようにするチェック機能の役割があります。

実質赤字比率・連結実質赤字比率については、赤字が発生していないので対象外です。実質公債費比率及び将来負担比率も、早期健全化基準以下となっていますので、今のところ概ね健全であるといえます。

ただし、公営企業における資金不足比率については、病院が0.8%となっており、昨年度（8.4%）より改善しているものの、持続可能で健全な経営を実現するため、引き続き、収支改善に向けて取り組む必要があります。

単位:%

健全化4指標	（イエローカード）		（レッドカード）
	令和3年度	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	なし	11.28	20.00
連結実質赤字比率	なし	16.28	30.00
実質公債費比率	4.1	25.0	35.0
将来負担比率	11.7	350.0	
公営企業における資金不足比率	水道	なし	20.0
	下水道	なし	20.0
	病院	0.8	20.0

財政力指数

この指数が高いほど財政力が高く、1.0を超えた場合には国からの交付税なしに財政運営することができます。ちなみに宝塚市は0.86で本市と同じ施行時特例市（※）の全国平均（令和2年度決算）は0.90です。

※ 施行時特例市

特例市制度は、平成12年4月1日から施行し、平成27年4月1日に廃止されました。特例市制度廃止の際、現に特例市である市（施行時特例市）は特例市としての事務を引き続き処理することとなります。

結局たからづかしの財政はどんなの？

これまで様々な角度から決算を見てきましたが、「数字はわかったけど、たからづかしの状況はどんなの？」という視点で決算を見てみます。



まず特徴をあげると次のとおりです。

- 歳入のうち、市税の割合が高い。
(令和3年度は国庫支出金・地方交付税の割合が大きかったため、約4割となりましたが、例年は約半分を占めています。)
- 地方債残高は、維持傾向。ただし、今後は建替更新などにより増加が見込まれる。
- 基金残高は、増。今後も施設の整備及び保全やローン（地方債）返済のために、これまで以上にしっかりと基金に積み立てて備える必要がある。

P2のとおり令和3年度決算としては、実質収支はプラスとなりました。

しかしながら、令和3年度は、令和2年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症の影響でいつもと違う年度となったことにより、実質収支が大きくプラスとなったと考えます。その主な要因は次の2つです。

- ① 市内のお店への支援や、学校や市の施設の感染症対策などにお金が必要でしたが、これらのほとんどが国や県からコロナ対策のお金をもらうことができました。
- ② 入ってくるお金は、令和2年度に比べて市税は微減しましたが、国税が想定していたより多かった影響で地方交付税が大幅に増えました。

今後の市の財政状況については、少子高齢化や人口減少が進んでいくことで市税などの入ってくるお金の大幅な増は見込めない状況です。

出ていくお金については、市の建物や道路などが古くなっており維持・管理費用が大きくなっていくほか、高齢化に伴い医療費などに今よりもお金がかかることが見込まれます。

また、みなさんの生活に必要不可欠なごみ処理施設も古くなっているので、現在建て替えに向けて取り組んでいるほか、市立病院の建物老朽化への対応や関連会社で長期間保有している土地の処分などの課題も抱えています。

このような今後の厳しい状況に対応していくため、3カ年で基盤の強化に向けて取り組んでいきます。

 **令和3年度決算の詳細及び主な事業はこちら** →



(市ホームページ「令和3年度決算概要」へリンク)

たからづかしの家計簿 令和4年（2022年）11月作成
企画経営部 財務室 財政課
電話0797-77-2022